

木になるフェスティバルの一日

企画指導部 普及課

第13回木のグランドフェアの初日を飾るイベント“木になるフェスティバル”を、林産試験場構内で7月24日（土）に開催しました（写真1）。みなさまに、木材や林産試験場の試験・研究に対して驚き、関心、興味を持っていただき、より長く滞在して体験いただくため、様々なイベントを用意しました。

そのにぎわい、反響ぶりをご紹介します。

【おもしろ科学体験コーナー】

これは、現在試験場でどのような研究・試験を行っているのかを理解していただくために、5つの研究部がそれぞれ創意工夫して出展したものです。



写真1 「木になるフェスティバル」オープニング



写真2 どんな香り？

○ 性能部：「木の良さを感じてみませんか」

・木材の香りを嗅ぐ：木材を入れた缶に空気を送り、そこから発生した香りを嗅いでいただきました。森をイメージする木材（針葉樹）は好評でしたが、少々酸っぱい香りの木材（広葉樹）にも別な意味で関心が寄せられていました（写真2）。

・木、アルミ、プラスチックの感触：見えないように隠した木、アルミとプラスチックを手で触り、木材のぬくもりを体感していただきました。このぬくもりが結露の防止に有効なのですが、当日は気温が高く、生ぬるいと感じた方も多かったようです。

○ 利用部：「木材の実験室」（写真3）

・木を顕微鏡で観察しよう：木材は樹種ごとにその形や色が異なり、顕微鏡で拡大するとさらに不思議な姿が現れます。木材がいくつもの小さい穴の重なった構造であることに“へエ”の嵐でした。

・炭を使って浄水：炭には不純物や色素などに対する優れた吸着能力があります。汚れた水が一瞬できれいになり、ここでも“へエ”の嵐でした（写真4）。



写真3 木材の実験室

写真4 炭の威力



写真5 花・木の香り



写真6 焼きイモ

・香りの体験：花、葉、木材中の精油は、アロマテラピーに使用されます。女性に好評でした（写真5）。

・ペレットストーブの焼きイモ：オガコなどから固形燃料が作られます。ここでは、これで作った焼きイモを試食していただきました。おいしいけれど、とても暑い日。秋に是非との声もありました（写真6）。

・防腐剤の識別：現在、試験場で重点的に研究しているものです。身近な話ではないので、少々わかりにくかったようですが、研究の一端に触れていただ

○ 技術部：「電動工具いろいろ教室」

電動工具を体験いただきました。日曜大工には不可欠な電動工具ですが、一度も使ったことがない方には、便利さ、おもしろさは全く理解されていないようです。そこで、電動ほぞきり、糸のこ盤、研磨機などを使ってワイン立てを組立ていただくコーナーを設けました（写真7）。ワイン立てにアニメキャラクターやイラストを彫ることで、さらに個性豊かな作品が完成しました（写真8）。お父さんたちの真剣な顔に、提供した側も満足できるコーナーでした。



写真7 電動工具体験



写真8 ワイン立て

○ きのこ部：「わくわくきのこ体験」

きのこに関する一連の体験コーナーです（写真9）。きのこクイズ、きのこの作り方（写真10）、きのこ狩りなど、チョット精巧でチョット難しいけど、不思議な体験コーナーと好評でした。募集人員の限られるコーナーですが、来年も狙い目です。



写真9 きのこクイズ



写真10 きのこの種付け

○ 企画指導部「木になるゲームコーナー」

木材を使ったゲームを企画しました。バケツいっぱいには木材をいれて、重さを当てる“目方でドン”。木材はけっこう軽かったり、重かったり。子どもたちの歓声でいっぱいでした（写真11）。



写真11 “目方でドン”



写真12 ベニヤレース



写真13 かつら剥き



写真14 単板の乾燥



写真15 合板記念

【合板試験棟見学会】

“丸太のかつらむき大公開”と題した合板工場の見学コーナーです。玉切りした丸太を、ベニヤレースでいわゆるかつら剥きに切削した後（写真12, 13）、クリップで切断、乾燥して単板ができるまで（写真14）をお見せしました。なお、さらに単板を交互に重ね合わせて、接着剤で張り合わせたものが合板です。20年ほど前ですと合板工場の見学は小学生の定番コースでしたが、今では見たことがないお子さんも多く、単板が上手にむかれる巧みさ、豪快さは一見の価値があったようです。思わず、記念の一枚を取る家族も見られました（写真15）。

【木工工作体験コーナー】

バードテーブル（写真16）、オリジナルウッドコースター（写真17, 18）、ベンチづくり・・・恒例の工作体験ですが、今年もみなさんの熱心さに頭が下がりました。小さなお子さんでも、長時間、作品づくりに集中できるのを見て、木材に対する日本人の思い入れの深さ、文化を感じました。



写真16 バードテーブルづくり



写真17 コースターづくり1



写真18 コースターづくり2



写真19 ウッドコースターづくり



写真20 企業出展

【上川支庁、企業コーナー】

さらに、上川支庁林務課ならびに上川南部森づくりセンターにはお絵かきオリジナルウッドコースターづくり（写真19）、アクセサリーづくり、久保木工（株）、（株）クマガイ、下川町森林組合（写真20）には「やすらぎの住生活を提案」を出展していただきました。来場の皆様には、試験場とは異なる視点からの工作体験、展示を満喫していただきました。カラマツの松ぼっくりを使ったアクセサリーはとてかわいらしく、たくさんの女の子に囲まれていました。



写真21 森の小人の音楽会

【北の木が生み出す音の世界展、森の小人の音楽会】

木と暮らしの情報館前で開催した音楽会では、「森の小人の音楽会」と題してピアノ教室に通われている30名の生徒さんにエレクトーンを演奏していただきました（写真21）。緊張顔で、この日に向けての特訓が想像されました。ご家族、お友達もハラハラしながらのビデオ撮り、声援でした。お母さんの好きな曲を選ばれた生徒さんも多く、職員もノリノリの懐かしい曲もありました。情報館のウッドデッキ、ウッドブロックとエレクトーンは、コンサート会場として一体感もあり、今後の風物詩となる予感がしました。



写真22 ピアノのアクション部

また情報館では、演奏会に合わせて、ピアノができるまでの工程、部材を展示しました（協力：北見木材（株）、蝦名林業（株）、（株）ヤマハミュージック北海道）。楽器、とくにピアノには道産材がふんだんに使われています。しかし、通常ピアノは鍵盤の白さ、黒塗りのフレーム、弦の輝きが目立ち、最も重要な役割を担う木材の存在感は低いものです。そこで、ピアノの命である木材の使われ方を展示しました（写真22、23）。



写真23 ピアノの響板

楽器は、こだわりが強い世界です。北海道のアカエゾマツは、優れたピアノ部材になります。しかし、その中でも、年輪が細かく、均一なものだけが使用され、当然、節、割れ、ヤニつぼなどの欠点は許されない世界です。100本のアカエゾマツから5、6本だけが、優れたピアノの部材になるのだそうです。職人さんが選びに選び、部材を丁寧に張り合わせてピアノを作るのです。演奏中に折れたり壊れたりしないように、とにかく丁寧に作られているのです。匠に敬服でした。

【木を暮らしに活かす講演会「北の木と語る 西川栄明氏」「本田匡写真展」】

今回の目玉である講演会には、多くの皆様にご聴講していただきました（写真24）。また、講演会のスライドを多く含む写真展を行い、見学していただきました。西川さんには、ナラ、タモ、ニレ、エゾマツなど12の樹種ごとに、それに係る文化、技術をお話いただきました。樹種ごとに個性が全く異なり、木とともに生きる職人さんのこだわり・熱意が、講演と写真から強く認識させられました（写真25）。作品（写真）の迫力、凄さは見応えのあるものでした。



写真24 西川氏講演会



写真25 本田氏写真展

“木になるフェスティバル”を通して、普段、飽きっぽいと言われる子どもさんたちが、2時間以上も集中して作品づくりに励む姿に安心させられ、改めて木材のすばらしさを感じました。

来年は、さらにこだわりを持ったイベントを企画・検討中です。ご期待ください。